

## 2022 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・国際共創学科・1年
------------	-----------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私がこのプログラムを通して学んだことは主に①生物多様性と②多文化共生社会の2つである。

①インドネシアは赤道付近に位置し、生物多様性のホットスポットである。文系の私がこの理系プログラムに参加した理由は生物多様性への知識を深め、興味のある危機言語の知識と統合させ、考えを深めるためである。赤道付近が生物多様性のホットスポットであることは周知の事実であるが、言語の地理的分布も生物多様性の高い、赤道付近の地域に集中している。生物多様性に溢れるインドネシアで学び、言語と生物多様性の関係について考えを深めることができた。

②4日目に訪れた Mulyaharja Village にはモスク、中華系のお寺、キリスト教の教会などがあり、インドネシアの人々が異文化に寛容であり、多文化共生の先進国だと感じた。

これらの経験は夏から留学予定のブータンでも役立つと考える。他国からの留学生とのコミュニケーションに活かしていきたい。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

私は文系なので、広島大学で受けている授業は文系の講義が多いが、生物生産学部の授業を受けたことをきっかけに養殖に興味を持ち、START プログラムに参加した。

今回のプログラムで一番楽しみにしていたことは SEAMEO BIOTROP のアクアポニックスや水耕栽培、vertical culture を見学することだった。アクアポニックスは私が一番気になっていた循環型有機農業法の一つである。水産養殖・水耕栽培を単体で行う際には、綺麗な水を保つために大量の水を必要とする。しかし、2つの農法を掛け合わせることで、使用する水の量を大幅に減らすことが可能になる。魚の生息できる環境を維持するためには農薬などを使用できないので、アクアポニックスで栽培される植物は結果としてすべてオーガニックとなる。また、土づくりや水やり、水替えが必要ないため、資源が不足している国でも行いやすい農法だと言える。水耕栽培は、都市部など、スペースが限られているところで費用対効果の高い方法であり、土に植えられた植物に比べて栄養価が高くなることや殺虫剤をほとんど使用しないなどのメリットがたくさんある。普段の講義では経験できない、アクアポニックスや水耕栽培を実際に見学できたことは10日間のハイライトの一つである。

この10日間は生物多様性だけでなく、文化的多様性について考えを深めることができ

た。インドネシア人の文化への寛容さは生活のあらゆる場面で感じる事ができた。日本は入管問題をはじめ、他文化への寛容さという点では後進国だと思う。私は出入国管理局で被收容者の方に面談活動を行うなど、難民支援の団体のメンバーとして活動している。日本の外国人受け入れ問題や異文化マイノリティ問題、日本における多文化共生社会に向けた課題を考える機会となった。

インドネシアは私にとって東南アジアの一つの国だったが、友達がいる大切な国になった。レクチャー前のコーヒブレイクの時間にインドネシア人学生とおしゃべりしたことや、ヒジャブを被ってモスクを訪れたこと、バスの中で 2 時間以上現地の学生と歌ったことなど、現地で過ごした 10 日間はどの瞬間も忘れられない一生の思い出になった。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

- お土産は多めに持っていく  
(私が持って行ったもの: Frixion のペン、お寿司のキーホルダー、日本のお菓子  
友達が持って行ってたもの: 扇子、広大のボールペン、セリアのお茶碗 など)
- 現地で洗濯できるように洗濯ロープ、洗濯ばさみ、ハンガー、洗濯洗剤があると便利
- お金は 2 万円くらい使いました (ほとんどお土産)
- 滞在先の寮のシャワーについて  
左に回すと暖かいお湯、右に回すと冷たい水と表示があるが、なぜか左に回すと冷たい水、右に回すと暖かいお湯が出た。(※ただ、どちらに回しても冷たい水しか出ないと  
きもある。表示に頼らずどっちも回してほしい)
- 襟付きシャツは多めに持っていくと良い (セレモニーやモスクに行くときのため)
- フルーツについて  
ドラゴンフルーツやドリアンなど日本では馴染みのないフルーツを食べる機会がたくさんあるため、自分のアレルギーをよく確認しておくこと (例: 普段、桃を食べる際、口  
の中が痒くなったりする子は現地でフルーツを食べる量を控える など)

## 2022 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部総合科学科 1 年
------------	----------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか
<p>渡航中に最も実感したことは知識の大切さだ。例えば私は、現地人との日常会話は問題なく聞き取ることができた一方で、授業内容は残念ながらあまり聞き取ることができなかった。理由は主に 2 つあり、専門用語をあまり知らなかったからと、似たようなことを学んだことがなく全く初めての内容だったからだ。後者に説明を付けたすと、大学受験の時に生物を学習していた友達は授業内容に関する知識が元からあったらしく、知らない専門用語も推測できて授業をよく理解できたと言っていた。しかし、私は生物ではなく物理を学習していたためそういった知識は無く、理解に苦しむ場面があった。この経験により、今後授業を受けるときは前もってその内容に関する内容を調べたり、テキストの予習をしたりしておくことに決めた。特に、私は英語で開講されている授業を積極的に履修したり、9 月からは長期留学を控えたりしているので、TED や Crash Course など単語を覚えつつ背景知識を付けることで、授業のより良い理解につなげたい。このプログラムで挫折した経験をこれからの学びに活用していきたい。</p>
(2) プログラム内容についての全体的な感想
<p>非常に良かったと思う点は、教室で授業を受けるだけでなく植物園、モスク、有名な観光地などに行けたことだ。大学のプログラムとはいえ、授業ばかり受けるのではなく渡航国のことも見て回りたいと思っていたので、実際にそれができたのは非常にありがたかった。また、単なる観光ではなく、植物園のように今回のテーマである生物多様性に沿ったものであったり、モスクや観光地は国や宗教などの異文化理解につながるものであったりしたため、非常に良い学びが同時に得られてとても有意義だった。スケジュールは本当によく練られていたと感じた。</p> <p>このプログラムは唯一の理系分野であったが、そのために授業や施設紹介、研究室訪問の時は専門用語が頻発して理解が追い付かないことがあった。偏見かもしれないが、理系は文系よりも専門的になってしまいがちなためにこのようなことが起こってしまうのではないかと感じた。改善策として、可能なら受け入れ先大学や団体から使いそうな単語リストを送ってもらえれば良いと思った。もしそれができないなら、しおりを見て内容を予想しながら学生が各自で調べていくしかないだろう。こういったことも課題にして提出を義務付けたり事前にテストを行ったりすれば、現地での授業の理解を促進でき、渡航して得られるものをより多くできるのではないかと考えた。</p>

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

・渡航前には事前学習をしっかりと行ってください。具体的にはオンライン英会話をする、テーマに沿った動画やサイトを見て単語を覚えておくことなどです。英語を話せたらそれだけ現地人との会話は弾むし、テーマ別英単語を覚えておけば授業内容がより理解できてより多くのことを学べます。

・お風呂やトイレは日本よりも汚いことを覚悟しておいてください。また、お風呂は水しか出ないことがあり、トイレの水が流れなくなることもあります。ただし、宿泊場所で起こったら、必ずスタッフに知らせてください。直してくれることが多いです。諦めて誰にも伝えないということは止めましょう。言ったもの勝ちです。

・必ず誰かと一緒に行動しましょう。できれば現地人と一緒に良いです。また、買い物やトイレに行くときも 2 人以上の方が良いです。1 人で行動した結果、友達は買い物中に不当に高い値段で売りつけられそうになり、私は外のトイレを使用後に払う必要のないお金を要求されました。友達はぼったくりに気が付いて買わず、私は何度も聞き返した結果 (現地語で理解できなかったため) 見逃してもらいましたが、皆さんはもっと気を付けてください。

・誰かのお話を聞くときは何か 1 つは質問をする気持ちで傾聴してください。仮に質問は思いつかなくてもより内容を理解でき、外国語ならリスニング力も上がります。こういったことを心掛けて、渡航を全力で楽しんでください！